

## 研究テーマ 回復期リハビリテーション病棟におけるせん妄予防とケアバンドルの検討

病 院 名 医療法人社団健育会 竹川病院

演 者 ○<sup>おおもり まさお</sup>大森正雄(看護師) 岸本恵美(看護師) 小澤由加子(看護師)  
宇佐美諭(看護師) 今木恵子(看護師)

### 概 要

#### 【緒言】

回復期リハビリテーション病棟(以下、回リハ病棟)へ入院後、せん妄が発症し本人の協力を得られず効果的なリハビリテーションの提供が妨げられるケースがある。先行研究で回リハ病棟入院患者を対象としたケアバンドル介入研究は明らかにされていない。そこで、エビデンスのあるケアを複数束ね(以下、ケアバンドル)「せん妄予防ケアバンドル」を作成し介入することで、せん妄の発症が減少するのではないかと考えた。

#### 【目的】

回リハ病棟入院患者を対象とし、日本語版ニーチャム混乱・錯乱状態スケール(以下、J-NCS)26点以下の患者に、入院時からの7日間にせん妄予防ケアバンドルを提供することで、せん妄発症数と入院後のJ-NCSの変化を調査し、その効果について明らかにすることを目的とした。

#### 【方法】

- 研究デザイン:介入研究
- 研究場所:A病院回リハ病棟
- 研究期間対象  
2022年5月～8月に入院したJ-NCS26点以下の患者を非介入群  
2023年5月～8月に入院したJ-NCS26点以下の患者を介入群とした
- 調査内容  
(1)属性 ①年齢 ②性別 ③疾患区分 ④入院日  
(2)J-NCS評価 入院時・3日目・7日目  
(3)先行研究(大森ら, 2022)を基に抽出したリスク因子11項目
- 倫理的配慮  
A病院倫理委員会に研究計画書を提出し承認を得た。

#### 【結果】

属性は両群の男女比に、大きな偏りは見られなかった。疾患区分は脳血管と運動器が多い結果であった。非介入群のJ-NCS, 26点以下71人、介入群59人の統計分析を実施し有意差はなかったが介入群のせん妄発症率は5.3%と低下した。

#### 【考察】

トイレで排泄を行うことの重要性を報告している(坂下ら, 2019)。排泄ケアは、せん妄発症数が多い結果となった。そのため個別性のあるアセスメントを行うことが効果的だったと推察された。睡眠ケアは、せん妄発症数が少ない結果となった。日光浴と睡眠の関連性を報告しており(栗生田, 2014)、昼夜逆転を予防し体内リズムを整えることは睡眠障害や失見当識を改善し、他職種と共有、生活環境を統一し介入することが効果的と考えられる。入院への理解に対するケアは、余暇活動では発症数が下がる結果となった。見当識を維持することの重要性を報告しており(栗生田, 2014)、個別性に応じた趣味や支援することが効果的と推察される。

#### 【結論】

- 入院時J-NCS26点以下の患者を対象に、ケアバンドルの入院7日目までの効果を検証した。
- その結果、個別性のあるケアをし失見当識や睡眠障害が改善することでせん妄の発症が減少したと考えられる。
- ケアバンドルすることでせん妄予防効果がある可能性が示唆された。